

2023 年度地元産業界等と連携した実践的 PBL

プロジェクト名	ジェンダー平等プロジェクト
大学名	聖泉大学
代表者（学生）	佐々木藍
科目名（シラバス あり）	人間学部 プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 D
担当教職員	人間学部 准教授 富川 拓
連携団体	米原市役所
SDGs 目標番号	5、11

1. 取組み体制

聖泉大学人間学部 学生 23 名（富川ゼミの学生）、教員 1 名（富川）、米原市役所 若手職員 29 名

2. 背景・目的

【背景】SDG s の取り組みが全国各地で進む中、地方創生、人口減少対策の鍵として SDG s の目標 5 「ジェンダー平等」に改めて注目が集まっており、その実現が地方自治体の課題となっている。ジェンダー平等の実現に向けた取り組みは、全国各地の自治体で「男女共同参画政策」として多様な展開を見せている。各自治体の男女共同参画政策の課題はその地域特性によって異なるが、共通の課題の一つとして、各種取り組みへの「若者の参画促進」がある。ジェンダー平等社会の実現に向けては、次世代を担う若者がジェンダー平等の問題を自分自身の問題として捉え、当事者の一人として取り組みに参画することが非常に重要となるが、多くの自治体では未だ不十分な状況にある。

【目的】本プロジェクトは、米原市におけるジェンダー平等の実現を目指して、次世代を担う若者たち（大学生と市役所の若手職員）がチームを組み、グループワークを通して米原市の現状に即したジェンダー平等政策を検討し、市に提言することを目的とした。

3. 活動内容：大学生と市役所の若手職員がチームを組み、「働き方改革・ワークライフバランス・男性の子育て」「米原市パートナーシップ・ファミリーシップ制度」をテーマとし、それぞれ政策を検討した。また各チームでアライとしてのメッセージも検討した。

①講義・事例紹介等

講師：聖泉大学 人間学部 富川 拓 准教授

- ・働き方改革、ワークライフバランス、男性の子育てについて
- ・米原市パートナーシップ・ファミリーシップ制度について
- ・その他（ジェンダー、ジェンダー平等、LGBTQ、アライ等について）

②当事者からのメッセージ

- ・育休を取得した市職員（男性）の方からのメッセージ
- ・パートナーシップ制度を利用しているセクシュアルマイノリティの方からのメッセージ

③ワークショップ I

- ・班別でテーマについて意見交換

④発表

- ・班ごとに意見交換の結果を発表、質疑応答

⑤ワークショップ II

- ・他の班の発表、質疑応答を受けて、再度班別に意見交換
- ・アライメッセージの検討

⑥講評、まとめ、

4. 目的の達成状況、成果（SDGs の目標達成含む）

当事者である若者たち（大学生と市役所の若手職員）が地域の現状に即したジェンダー平等政策を検討し、米原市役所に提案することができた。

5. 課題、懸案事項

- ①提案した政策の実現に向けて、来年度以降の具体的な活動を検討する必要がある。
- ②提案した政策の実現に向けては、聖泉大学と市役所だけでなく、市民や企業、学校などとの協働体制の構築が必要となる。